

# シリーズ「乳がん」①

## 乳がんの早期発見の必要性

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

外科 太田文典、川嶋沙代子

「先生、乳がんは罹らないようにするにはどうすればいいですか？」

なく、全年齢層にわたって注意しなければならぬ身近な疾患です。

外来に來られる患者さん達から度々この質問を受けます。しかし残念ながらこの問いに対する的確な答えはありません。一部では乳製品や肉類の摂取が乳がんの発症に影響する事が論じられていますが、十分に信頼できるデータによる裏付けがあるとは言えません。ですから、今のところ乳がんを予防する事は困難です。乳がんは日本人女性で罹患率が最も高い悪性腫瘍です。日本人では1人に1人の頻度で罹患するとも言われており年々増加傾向です。日本では毎年約5万人の方が乳がんと診断されます。また、30歳から50歳代の比較的若年の患者さんが多い事も乳がんの特徴の一つです。現役で仕事をされている方や、学校に通っている子供さんの子育て中の方、社会、職場、家庭で中心となって活躍している世代の方が罹ることが多い悪性腫瘍です。もちろん年配の方でも罹患率が低いわけでは

なく、全年齢層にわたって注意しなければならぬ身近な疾患です。しかし、乳がんは正しく理解して適切な治療を受ければ治癒する確率も高い疾患です。乳がんを正しく理解し、早期発見、治療する事で乳がんを克服する事は可能です。先ほどの「乳がんには罹らないようにするにはどうすべきか」の質問には答えられませんが、『乳がんには罹ってしまいましたが、乳がんには負けないようにするにはどうしたら良いですか？』の質問であれば、全ての患者さんに対して個人個人に合った答えを私なりに見つけて答えられます。乳がんは分かりませんが、見つけた乳がんを治療するために乳腺外科医が存在するのです。

時々乳房に触れて違和感を感じるかどうかをみて下さい。ちょっとした事で気付かれる事もありますので、是非思いついた時から実施して下さい。そして、何より受けてもらいたいのが乳がん検診です。日本では乳がん検診は視触診とマンモグラフィの併用で行われていますが、特に有用なのはマンモグラフィです。マンモグラフィは乳房を圧迫して撮影するため、一時的ですが痛みを伴う検査です。そのせいもあってか、日本での検診受診率は徐々に増えてはいますがまだ20%程度しかありません。乳がんを克服するためにはこの検診受診率を上げる事が必須です。実際に欧米では受診率は70%を超えており、検診受診率が高くなると同時に乳がん死亡率が低下する傾向もみられています。残念ながら日本ではまだ乳がん死亡率は上昇している段階ですが、日本も早く欧米並みの受診率に達する事が大切で、欧米のデータが示す通り、乳がんは早期発見、早期治療でその多くは治癒するがんです。闇雲に恐れず、まずは自己検診、乳がん検診を受けましょう。何か気になる事があれば、ぜひ当院乳腺外来を受診して下さい。